

馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会(第2回協議会)

議事概要

- 日 時 : 平成 28 年 10 月 4 日(火) 13 時 30 分～15 時 20 分
- 場 所 : 八戸市新井田川水防センター 2階会議室
- 委員出席 : 八戸市長、三戸町長、南部町長、青森県県土整備部長(代理:理事)、青森県危機管理局長(代理:防災危機管理課主査)、気象庁青森地方気象台長、国土交通省青森河川国道事務所長(代理:副所長)

○資料-1 規約の改正について

【青森県県土整備部】

県の方からお願いして、このような形で県の管理区間を加えていただきありがとうございました。高瀬川・岩木川につきましても、県の区間を加えて対応させていただいているということでありありがとうございました。

○資料-2 減災の目標変更

異議なし

○資料-3 取組方針

【南部町】

協議会に参加させて頂きまして感謝申し上げます。

9Pの所では避難誘導は市町職員とあるのですが、8Pの所で「c)の現状のところの2段階目、避難情報を防災無線、市安全安心情報発信サービス」というのは、市でいいのか、町は入らなくてもいいのか確認したい。

【八戸市】

構成市町村の情報発信サービスは市が運営している。利用は広域で行っているが、内容によっては町村で情報発信しているものもあり、情報は登録した人に流している。

個々の市町村の情報についてはその区域内に送られる。

【青森河川国道事務所】

町村それぞれの区域内の住民に対する情報発信も行っていることで整理させていただきたいと思います。

【青森県県土整備部】

今回とりまとめます取り組み方針ですけれども、大きな目標の3本柱を見ますと、住民主体で安全な避難行動を促すリスクコミュニケーションというのが一番

にあがっています。

取り組み方針の中身を見ましても、住民目線であるところが大きなキーワードになっています。住民目線となると今回の取り組み方針をかみ砕いてわかりやすく説明することから始まると思われ、関係者が理解を深める時間も必要かと思われ。

今後さらにこの取り組み方針を充実させていくために、この協議会をもう少し回数を多く開くなり、もしくは幹事会を開くなり、さらに充実する意味でそういうことをしたらどうかという提案でございます。

【青森河川国道事務所】

次の「今後の進め方について」のところでもご説明いたしますが、この取り組みに対して、いろんな課題等がでてくると思いますので、勉強会などを青森河川国道事務所が主体的に考えていくということと共に必要に応じて幹事会や協議会を実施していきたいと考えております。

○資料-4 今後の進め方 異議なし

○その他（情報提供について）

【青森県土整備部】

情報提供の2つ目の資料で高瀬川水系での2箇所の破堤状況について、青森河川国道事務所と高瀬川河川事務所の両方には大変お世話になりました。助けていただきました。

また、台風10号が北西にずれていた場合の想定ということで、情報提供の一つ目の資料3Pの下に浸水想定図がありますが、櫛引橋の所までが国で管理している所になりますが、赤印が破堤した所で八戸市内が浸水するという絵になっていますが、実は南部町、三戸町については破堤しなくても浸水するというので、県としては国に対して抜本的な治水対策をこれまで以上に要望していかなければいけないと思っています。

櫛引橋下流は住宅や農地を含めて安全度が40年に1回の雨を対象としたものまでおおむね完了しております。しかし櫛引橋より上流については、農地はまだ手が付けられない状況で、災害危険区域ということで土地利用規制をしていただいたうえに、床上浸水対策事業や広域河川改修事業を引き続きやっているのですが、これでやっと宅地が1/20になるという状況です。この辺につきましても本当に県の力不足を感じているところでございます。

県での改修が進まない所は県の危機管理局にお世話になりまして、鱒ヶ沢町の中村川で一昨日、水害の避難訓練等をしていただきました。こういった情報もこの協議会を通じてみなさま方にお届けしたいと思っております。

【青森地方气象台】

本協議会の資料の八戸市のタイムラインを見ますと、ホットラインという言葉

が使われております。青森地方気象台も首長さん方とできたらホットラインを結んで、支援ができたかと考えております。情勢の変化について不安に思ったら私の方に直接電話ができる体制をとり、避難勧告等の発令の支援ができたとも考えています。既に、一部の市町の首長さんには電話番号を頂いていますが、このような体制が整っていない各首長さんに伺いしたいと思っています。

【三戸町】

三戸町では「川上」の雨量計を参考にしております。その雨量計で町の水が多く出る時間帯などを見ているのですが、俗に言うゲリラ豪雨などが雨量計がない場所にたくさん降るといようなことは気象台として解るのでしょうか？

【青森地方気象台】

予報と同時に実況監視を行っています。まず気象庁の雨量計、県や地方自治体の雨量計でそれらが使えるか使えないかを判断しています。品質管理をして使えるところは全部使っています。ですから気象庁の雨量計だけを使っての判断ではないというのが一つ。

もう一つは、解析雨量というのがありまして、レーダーと雨量計のデータを元に、この付近では何mm降る予想となるのか解析を行っています。

実際にレーダーと雨量計で合成して使用しており、その解析雨量を使うときは百何mmとか値が大きくなる場合があります。しかし、山岳部と平地で同じように利用するわけにはいかないのです、そこは経験則も入れて処理しています。

【三戸町】

18Pにメッシュ情報があるが、数多く出してもらえばわかりやすい。

【青森地方気象台】

メッシュ情報というのを市町村の担当者をご覧になることができるのは、土壌雨量指数のメッシュ情報、流域雨量指数と解析雨量があります。解析雨量は実況の値を出すのと、これからの1時間、洪水短期間6時間先の予想まで見ることができますので、急な雨については実況の方をご覧頂いて、これから先どんなふうに変化していくのかについてはナウキャストを使って頂くと良いと思います。また、6時間先というところかなり精度が落ちてくるのですが、1時間2時間先であれば精度良く知ることができますのでこちらの方を参考にいただければ。

市町村の担当者の方であれば、防災情報提供装置というものが各市町村さんにIDとパスワードをお渡ししていますのでこれで見ることが可能です。

【三戸町】

県や気象台から入ったりする情報で避難所を開設するのですが、このごろは運良くハズレており助っていますが、今度は出しても緊迫感を感じないという方も出てきますので、正確な情報をいち早くもらえるようにしてほしい。

川ばかりではなく、山側からも来ますのでそれらもメッシュ情報など出して頂ければ。

それと一つ要望は、さまざまな避難情報を出しますが、さっきも話にありまし

たが、ほっとするメールやエリアメールなど、さまざまあるのですが、エリアメールだとエリア内でないと入りませんし、ほっとするメールは圏域全部が入りますし、そういう情報が今度はたくさんあります。防災放送をかけますが放送が聞こえないところがあったり、その一長一短がさまざまあります。

一番見るのがテレビですので、テレビのテロップなど私もあれを一番見てますので、できるだけ住民がわかりやすいように。

メールで出すのですが見ていない方がいるので、エリアメールの場合2回出します。八戸に仕事に来ている場合は、三戸しか入りませんので、帰るころにもう1回出しますが、中々それをちょっと忘れてたりすれば伝わらないということで、できれば統一した発信があればいいなと思っていました。

【青森地方気象台】

防災情報・気象の情報に関しましては、防災提供システムで、各市町村、あるいは関係機関、防災担当機関に提供しています。すべてIDとパスワードがあり、担当の方はご存じだと思いますけれども、このシステムで見ることができます。

このシステムが自動で報道機関にも当然NHKを含めて提供されます。ですから私にメールが入ってくると同時にテロップも出るような状況でして、それぐらいのスピード感をもって提供されていますので、情報としては統一され、瞬時に提供されているところです。

それと、わかりやすい洪水予報文への改良ということで気象台もP18にあるように、要するに絵で見て、誰が見てもわかるような危険度を示すバーチャートの色分けして提供しています。雨であれば何mmか、風であれば何mかというところも防災情報システムで提供しています。

住民の皆さんが理解して頂けるようにわかりやすく。一方で防災担当者の方々には、警報は明日は大丈夫かと言われる前に、明日は警報の可能性が「中」あるいは「高」という資料も提供しています。

これらの改善、改良は、何年度までという制限ではなくて出来るものから順次実施することで減災に努めなさいと指示を受けてやっているところです。

あと、当方から支援できることはしたいと思っていますので、ホットラインを結んで頂いて、いつでもお互いに支援できる方向にいくようにしたいと思っています。

【青森河川国道事務所】

この会の大きな目的ということで住民目線の情報発信のありかたとか、住民が自主的に避難行動につなげるための取り組みということを考えています。

是非、町の方でも住民一人一人にどのような形であれば届くかということを検討して、それを協議会で共有して実行につなげていくということをこの協議会で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

国交省川の防災情報やレーダ雨量、NHKのデジタル放送からも水位・雨量の情報を確認できるので住民一人一人が入手できる情報と思っていますので、こういった情報をどう届けるべきかというところも是非協議会で検討していきたい。

○本協議会の感想（各首長より）

【南部町長】

まずは5年計画で進めていくということで、今できるものから順次進めていながら、南部町の流域、市民住民の安全安心を確保していきたい。今までも河道掘削また現在は堤防の築堤等も県の方からも力をいただいております。いつくるかわからないという中で、1年でも早く整備していくということが大事だなと思っています。

やはり一番は避難勧告の発令、このタイミング早すぎてもあとで色々苦情もあるため、的確なタイミングを間違っはいけないだろうなと思っていますので、ソフトハードを含めながら取り組みをお願いしたいと思っています。

排水路が河川より低くなっている地区が数カ所あるため、排水対策を実施する必要があるため、今後また検討させていただきながら、いろいろお願いしたいと思います。

【三戸町長】

三戸町は馬淵川、熊原川と2つありますが、整備の方は進んでおります。輪中堤等も宅地を守る、住宅を守るということでは、南部町の相内の輪中堤が参考になり、うちのほうも完成いたしましたので安心しております。

あとは堤防等整備も計画されておりますので、早めに工事が出来ればと思っています。そういう中で今日は馬淵川の大規模水害ということで、本当にいつくるかわからない大規模な水害、これも想定外ではなく、想定内だろうと思っています。それに向けてこういう協議会の中で情報を頂いたということ、町としてもこの計画に基づいてしっかりと事業等進めながら、また今日はホットラインのこともお話しさせていただきましたので、それらについてはどんどん使ってくださいということ頂き、ありがたいと思っています。

今後ともさまざまな面で御世話になるだろうと思います。よろしく願いいたします。

【八戸市長】

今日の協議会大変ありがとうございました。

私は前々から言っているのですが、馬淵川に限らず全国的な課題としては、上流で水を大きくためるような治水の基本的な考え方が必要ではないかという意見も持っています。

最初にビデオを見たのですが、ああいう話だけではなくて、ハード対策など、やるべきことはもっとお金をかけてやるべきだと思っています。

また、逃げなかったことによって犠牲になった人もいます。そのことをわかってもらえるように、市民・国民に向けて意識啓発的なことが必要ではないかと思っています。

命を守るためには逃げろと言われなかったという話ではなく、もっと客観的に見て各個人がそういう意識を持つようなことが必要ではないかと感じていました。

あと、水防団のなり手がいない。河川の水害に対する水防団を募集することや特別な手当など財政的なことを考えた方がいいと思っています。